

第 1 回美作大学の公立化に関する有識者検討会議 議事要旨

日時 令和 7 年 6 月 21 日(土) 午前 10 時 00 分から

場所 津山市役所 2 階 大会議室

【会議次第】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員自己紹介
- 5 会長及び副会長の選出
- 6 議事
 - (1)会議の概要及び全体スケジュール … 資料1～1-3
 - (2)大学を取り巻く環境について … 資料2
 - (3)美作大学の現状について … 資料3
- 7 閉会

【配布資料】

- ・美作大学の公立化に関する有識者検討会議委員名簿
- ・美作大学の公立化に関する有識者検討会議設置要綱
- ・「美作大学の公立化に関する有識者検討会議」の概要等について(資料 1)
- ・要望書(資料 1-1)
- ・「美作大学の公立化に関する検討」の前提となる事項の確認(資料 1-2)
- ・津山市からの照会事項に対する回答について(概要版)(資料 1-3)
- ・大学を取り巻く環境(資料 2)
- ・美作大学の概要について(資料 3)

第1回美作大学の公立化に関する有識者検討会議 議事要旨

日 時 令和7年6月21日(土) 午前10時00分から

場 所 津山市役所2階 大会議室

出席者 ○委員9名(50音順、敬称略)

柴田 和正、白山 真一、高戸 仁郎、滝澤 浩三、長江 真理子、
西山 修、光岡 宏文、宮本 和之、元山 晃

○市長 谷口 圭三

○事務局7名

○学校法人美作学園・美作大学6名

1 開会

2 委嘱状交付

3 市長あいさつ

皆さんおはようございます。皆様方には本当にお忙しいところ、こうしてお集まりいただきましてありがとうございます。

また、先ほど委嘱をさせていただきましたが、ご就任いただきましたことに対しまして、心から感謝申し上げます。

本日ご出席の皆様は各分野でご活躍され、重責を担っておられる方々です。このような皆様にご就任いただき、検討にご協力いただけることを大変ありがたく、また非常に心強く感じているところでございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、現在の私立大学を取り巻く経営環境については、改めて申し上げるまでもなく、人口減少や少子化、さらに若者の大都市志向ということもあり、志願者数の減少や経営の厳しさに直面している状況であると考えております。特に地方の小規模私立大学では、定員割れが生じており、大学の存続が危ぶまれる状況になっているということも否定できない事実だと思います。美作大学もちろん例外ではございません。

こうした状況を受け、学校法人単独では対応に限界があるということで、本市に対し公立化の検討を求める要望が寄せられているところでございます。

美作大学には、本市において専門的な人材育成はもとより、企業活動への支援や若者の定住にも非常にご尽力をいただいております。また、この地域の拠点都市・中心都市と言われる津山市でございますけれども、美作大学は本市の拠点性を維持していく上で欠かせない公共財であると、このようにも思っているところでございます。

したがって、大学が存続・発展をしていくことは本市の将来にとっても極めて重要なことであると考えているところでございます。

公立化によってどういうことがメリットとして挙げられるのか、あるいは、デメリットもあるかと思いますが、皆様方には、大所高所からのご意見、そして専門分野からのご意見をい

ただきまして、ぜひとも、客観的かつ専門的見地からご議論いただきたいと存じます。報告書は11月を目途に取りまとめていただくという予定をお願いをさせていただいているところです。その内容を踏まえまして、市議会や住民の皆様のご意見も十分に考慮させていただき、公立化の是非や大学の将来について、最善の判断をしてみたいと考えております。

最後に、委員の皆様方には、豊富なご経験や専門的な知見を是非とも生かしていただきまして、活発な議論のもと、この検討会議の取りまとめをお願い申し上げ、冒頭のごあいさつとさせていただきたいと思います。皆様には大変お世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

4 委員自己紹介

○事務局

ここで委員の皆様から自己紹介をいただきます。委員名簿の順にマイクを回していただいて、一言ずつお願いします。

それでは、柴田委員からお願いします。

○柴田委員

おはようございます。委員を務めさせていただきます柴田と申します。商工会議所の副会長をいたしております。また、産業界からということで、会社は日本植生という会社をやっていますので、そういう面でも津山市にとってどういう形になればいいかということを検討しながら、公立化という問題に意見を述べていきたいと思います。皆さんと一緒にこの問題に取り組んでいきたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

○白山委員

皆様おはようございます。白山と申します。よろしくお願いいたします。現在、宇都宮大学のデータサイエンス経営学部で教授をしています。

私は、専門が公共部門、非営利公共部門の運営の管理、行政管理と会計の方が専門領域で、公立大学法人化、地方独立行政法人化等々、国の独法化も含めて様々なところでお手伝いや会計基準を作ってまいりました。客観的な立場からいろいろと意見させていただければと思っていますのでどうぞよろしくお願いいたします。

○高戸委員

おはようございます。岡山県立大学の副学長をしています高戸と申します。

所属は、保健福祉学部現代福祉学科で、社会福祉士や介護福祉士の養成に携わっています。専門は、応用健康科学で、福祉の関係で言いますと、高齢者の介護予防、視覚障害に関する研究に携わっています。公立大学に身を置いていますので、そういった立場からお役に立てるよう精一杯務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○滝澤委員

おはようございます。地元の津山中学校・高等学校の校長をしています滝澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

美作地区の公立高校の代表として、大学に直接つながる高校の代表という立場で参加さ

せてもらっています。どうぞよろしくお願いいたします。

○長江委員

おはようございます。社会教育委員の長江真理子と申します。よろしくお願いします。

この市役所と美作大学のちょうど真ん中の地域に住んでおりまして、日頃から学生さんとは身近に接する機会が多くあります。

日頃は、東小学校の地域学校協働活動推進委員をしていますので、学生さんとの接点がある地域活動をしている 1 人として、この会に参加させていただきますのでよろしくお願いいたします。

○西山委員

失礼します。岡山大学の西山と申します。よろしくお願いいたします。

これまでに国立大学、市立大学、県立大学、私立大学、そして岡山大学と、大学を取り巻く環境が変わる中で、各大学を渡り歩いてまいりました。いろんな立場から、意見を申し上げさせていただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

○光岡委員

失礼いたします。美作地区の高等学校PTA連合会の会長という立場で参加させていただきます光岡と申します。

現在、岡山県立津山中学校・高等学校のPTA会長を務めさせていただいて 5 年目になります。子どもは、大学生一人と高校生 2 人の子どもがいますので、保護者という立場で参加させていただきます。

仕事の方は製造業をしていますので、商工会議所、ロータリークラブにも参加させていただき、まちづくりにも関わらせていただいています。よろしくお願いします。

○宮本委員

皆様おはようございます。公認会計士の宮本と申します。

私は、山梨県の公立大学、都留文科大学の監事を務めています。そういった経験を踏まえて、今回の業務に少しでもお役に立てるように努めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○元山委員

皆様おはようございます。周南公立大学の参与をしています本山です。

私は、私立大学から公立大学へ転換した大学の経験者ということで、委員として意見をさせていただきたいと思います。

周南公立大学は、1971 年に当時の徳山市が大学を誘致し、公設民営型の私立大学として、約 50 年間運営してきました。2022 年の 4 月に周南公立大学へと公立化した大学ですが、私は、徳山大学時代から大学の方に勤務しており、日本私立大学協会というところに所属していましたが、美作大学も同じ協会へ所属していました。

当時から、美作大学については、非常に高い教育力、これは国家資格等々の資格の取得に表れていると思いますが、「美作のまさか」というような奇跡的な実績をずっと出されてきた大学ということで、目標にしていた大学のひとつです。

この度、縁あって、美作大学の公立化の検討ということで、委員に就任させていただきます

したので、私学の経験、公立大学への転換の経験から意見を述べさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

なお、事務局のメンバーにつきましては、配席表をお配りしていますので、そちらを参照してください。

5 会長及び副会長の選出

○事務局

続きまして、会長、副会長の選出です。検討会議設置要綱第 5 条第 2 項により、委員の互選によるとされています。どなたか意見はありませんか。

それでは意見がないようですので、事務局案ですが、会長に西山修委員、副会長に白山真一委員を提案します。異議がなければ拍手をもって承認をお願いします。

○委員

(拍手承認)

○事務局

ありがとうございました。

委員の皆様の承認により、会長に西山委員、副会長に白山委員が選出されました。

それでは、会長、副会長は席の移動をお願いします。

ここで会長、副会長から一言ずつあいさつをお願いします。

○会長

失礼いたします。

改めまして、会長に選任いただきました西山です。よろしくお願いします。身の引き締まる思いです。

ちょうど本年 2 月に中教審から「知の総和答申」というものが出され、地方大学を含め、大学の今後の方向性、地域創生のあり方などが示されたところですが、このタイミングで美作大学の公立化、あるいは津山市のまちづくりについて議論できることは、本当に有意義なことだと思っています。

今回、産業経済界、会計・経営のスペシャリスト、地元で活躍の皆様にお集まりいただいていますので、忌憚のない意見を出していただけたらありがたいと思っています。公立化に対しては、いろんな課題や、懸念なども出されるだろうと思いますので、しっかりと議論していきたいと思っています。

一方、これからの大学への期待、役割、機能への意見も出していただけたらありがたいところです。

両面からしっかりと意見を出していただくことで、厚みのある十分な議論が可能になるのではないかと考えていますのでどうぞよろしくお願いいたします。

○副会長

副会長に選任されました白山です。改めましてどうぞよろしくお願いします。

美作大学は歴史と伝統のある大学で、地域とともに歩んでこられたところに非常に感銘を受けています。

今、私が所属している国立大学法人も、栃木県の宇都宮大学という地方の国立大学ですが、地方とどういう形で関わりを持って、知の拠点としてどう活動していくのかが常に突きつけられている課題で、どういう形で地域貢献、地方創生に大学として貢献できるのかを考えながら業務に従事しているところです。

美作大学についても、様々な意見が出てくると思います。

今、会長がおっしゃられたように、7月には文部科学白書が出ますけど、そちらにも安易な公立大学化は認めるべきではないと書かれるという報道もあります。プラス面とマイナス面、双方を客観的に議論しながら、結論を報告書にまとめられればと思っています。会長を支えながら頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。

○事務局

ありがとうございました。

それでは議事に入ります。

ここからは、本検討会議設置要綱の規定に基づき、西山会長に進行をお願いします。西山会長よろしくお願いします。

6 議事

○会長

ここからは、私が議事を進めさせていただきます。皆様におかれましては、忌憚のない意見をよろしくお願いします。また、円滑な議事運営に協力をお願いします。

なお、この会議は原則公開で、すべての会で傍聴可能となっており、本日の配付資料、議事録は、後日、市のホームページで公開する予定となっています。

それでは、お手元の次第に沿って進めます。

(1) 会議の概要及び全体スケジュール

○会長

議事の(1)、会議の概要及び全体のスケジュールについて事務局からお願いします。

○事務局

それでは一つ目の議事、会議の概要及び全体スケジュールについて説明しますので、資料1の1ページをお開きください。

美作大学の公立化に関する津山市への要望等の経過についてです。

要望書の写しを資料1-1で添付していますが、令和6年1月29日、美作学園から美作大学の公立化に向けた検討を求める要望書が津山市に提出されています。要望の主旨は、大正4年の津山高等裁縫学校の創立以来、地域立学園として、地域の暮らしを支える人材育成に尽力し、卒業生2万人が各地で活躍をしてきた。しかし近年は、18歳人口の減少や若者の都市部志向によって、地方私立大学の存続が危ぶまれていること、大学が閉鎖した場合には、若者の流出や地域経済への悪影響、地域活力の低下などが懸念されること、そし

て学園単独の努力には限界があることから、永続的な発展には公立化が望ましく、教育研究活動や人づくりを安定的に進めることは、大学と地域の双方にとって大きな意味があるということでございます。

次に、関連文書は資料 1-2 ですが、美作学園からの要望を受け、令和 6 年 2 月 5 日付で、津山市から美作学園に対して、公立化の可能性を検討する上で前提となる事項として、一つ目に公立化する部門。これは学園が、大学、短大、高校、幼稚園の 4 つの部門を運営していますが、どの部門の公立化を要望しているかを確認するものです。その他の項目として、移管する土地建物と金融資産、学園の経営改革の取組、今後の大学のビジョンの 5 点について照会をしています。

その後、これらの照会事項への回答について、学生数の変動や、令和 5 年度の決算、またその後の環境の変化などを踏まえた内容への修正が必要となったことなどから、要望から 1 年後の令和 7 年 1 月 30 日に、これらの照会事項に対する回答が本市に提出されています。

なお、この回答書類の概要は、資料 1-3 で、実際に回答された資料の詳細な内容については、後ほど、資料 3 で、美作大学の現状について、美作学園からの説明に含まれていますので、本日の添付は割愛をしていますが、本日の資料一式と併せまして、後日、市のホームページに公開する予定としています。

また、大学から公立化の要望書が提出された後は、下側の表のとおり、本市に対して、美作大学同窓会などから、公立化に向けた約 3 万名の署名簿のほか、経済関係の 2 団体と医療関係の 2 団体、さらに連合町内会からも、公立化に関する要望書が提出されています。

次に 2 ページで大学の公立化について説明します。

大学の公立化とは、私立大学の設置運営主体が、学校法人から地方自治体、またはその自治体が設置する公立大学法人に変更されるということで、設置者変更という手続きを行うことを指しています。

また、公立大学の運営形態には、自治体直営型と公立大学法人型があり、一般的に、自治体直営型は、大学が自治体の組織の一部として運営され、教職員は原則として地方公務員となり、人事や予算、組織編成などを自治体が直接管理するものとなります。

一方、公立大学法人型は、地方独立行政法人法に基づき設立される公立大学法人が設置・運営主体となるもので、教職員は、非公務員のままで、民間的な人事・運営手法も導入できるなど、自律性、柔軟性が高い運営が可能ということになります。

美作大学の公立化については、大学運営の自律性や柔軟性が高まる利点があること、また、私立大学から公立化されたすべての事例でも、公立大学法人型が採用されていることなどを踏まえ、公立大学法人型への移行を検討することとしています。なお、下の表では、自治体直営型と公立大学法人型の主な違いについてまとめています。

一番下の導入状況のとおり、公立大学法人型が全国的にも主流で、直営型は 10 校のみとなっています。

また、令和元年度以降の公立大学設置状況を見ますと、新たに 10 校が設置されている

ようですが、静岡県が農林大学校から移行させたものと、山形県が新規に設置した農林系の専門職大学、また、川崎市が短大を4年制大学に移行させた看護大学、この3校以外は、すべて公立大学法人型で設置されている状況です。

次に3ページで公立化の検討に向けた考え方と、会議スケジュールについて説明します。

まず、当検討会議を進めていく上での基本的な考え方ですが、会議の目的としては、会議設置要綱のとおり、大学と附属幼稚園の公立化をはじめとする今後のあり方等の検討に当たり、専門的かつ客観的な見地から議論を行い、本市としての方針を決定するための判断要素を示すということになっています。

また、このほか、本市としては、資料に記載のとおり、会議を進めるにあたって、以下の3つの考え方を掲げています。

まず、公立化の検討は、大学救済を目的とするものではなく、大学を通じた地域のまちづくりを主眼に据えて行うこと。次に、既存学部・学科の教育内容の見直しや新たな学部・学科の設置については、公立化の有無にかかわらず、地域社会や産業界が求める人材像や育成のあり方のほか、経済性や持続可能性などを含めた多角的な視点から、現実的な議論を行うこと。そして、美作大学が当地域で永続的に存続・発展することを重視し、大学の魅力向上や経営安定化策も含め、公立化をはじめとする各種方策の有効性、実現性や課題について検討することの3点で、これらの点を踏まえて検討いただきますようお願いします。

次に会議のスケジュールですが、開催日程は案内のとおり、本日を含めて5回を予定しています。

また、会議の議題につきましては、第2回以降の予定も記載をしていますが、各回での議論の内容や、各議題についての検討状況を踏まえて、適宜変更したいと考えています。

なお、会議での議論の内容等については、方法や形式などは改めて相談させていただきますが、報告書の形で取りまとめた上、本市へ提出いただくことをもって会議の目的が完了することとなっていますので、どうぞよろしくお願いします。

説明は以上です。

○会長

事務局からの説明に質問、確認などありましたら挙手をお願いします。

よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、このスケジュールを基本に進めますのでお願いします。

(2) 大学を取り巻く環境について

○会長

それでは、次の議題に移ります。続いて、(2)の大学を取り巻く環境について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

それでは二つ目の議事。大学を取り巻く環境について説明します。資料2をご覧ください

い。

以下の説明では、日本の高等教育機関、特に私立大学と公立大学を取り巻く環境や、岡山県内の大学の状況、また、津山市における人口や進学動向と、幼稚園を取り巻く環境について説明します。

では 2 ページをご覧ください。18 歳人口は、1992 年に 205 万人のピークを迎えた後は減少を続け、途中で横ばいの期間がありますが、2040 年以降は 70 万人台に落ち込むと推計されています。

一方、大学進学率は上昇傾向にありまして、今後もわずかながら上昇が見込まれています。

なお、津山市内の高校の 2023 年度の大学進学率を見ますと、全国平均より 10%以上低い 46%となっています。

また、大学入学者数は、進学率の上昇により 64 万人程度をピークに増加をしてきましたが、2027 年以降は減少に転じ、2040 年代には 40 万人台前半で横ばいになると推計されています。

次に 3 ページをご覧ください。

全国の大学の概況についてです。18 歳人口は、長期にわたって減少傾向が続いている半面、大学数は 30 年間で 1.5 倍の 813 校に達しており、そのうち私立大学が約 8 割を占めている状況です。なお、国立大学は、2003 年をピークに、やや減少する一方、公立大学と私立大学は増加傾向にあります。

次に 4 ページをご覧ください。

こちらは私立大学の概況ですが、私立大学の経営状況は厳しさを増しており、2024 年には、私立大学の 59%が定員割れとなっているほか、収支状況を見ても、地方の中小規模大学では、39%が赤字となっています。

次に 5 ページをお開きください。

こちらでも私立大学の概況ですが、令和 6 年度の大学の入学定員充足率を規模別で見ると、1,000 人以上では充足率が 100%を超えている一方で、小規模になるほど低下しており、赤字で困っている美作大学の 210 人の定員が属する区分の充足率は 83.52%で、全国平均の 98.19%を大きく下回っております。

また、地域別で見ますと、東京・大阪・福岡などの大都市圏は高い充足率を維持している一方で、中四国や東北では低迷しており、地方の小規模私立大学の厳しい状況が読み取れます。

次に 6 ページをお開きください。

こちらは、公立大学の志願倍率で、小規模あるいは地方の大学を含め、多くの大学で高い水準にあって、公立化により安定的に学生を確保できる可能性が高まると予想されます。

次に 7 ページです。こちらは入学初年度の学費の比較ですが、公立大学の学費は、私立に比べて大幅に安価となっています。美作大学が該当する家政・生活科学部では、公立は私立より約 4 割低い水準となっています。一般的には、地域に公立大学が存在することで、経済的な理由から進学を断念する若者などにも学びの機会を提供できると考えられていま

す。

次に 8 ページをご覧ください。

こちらは、国の審議会による議論の内容で、高等教育へのアクセス確保の観点が表示されています。美作大学は、美作地域 3 市 5 町 2 村で唯一の大学で、地理的観点からのアクセス確保に寄与していますが、学費負担の様々な軽減策の導入など、社会経済的な観点からのアクセス向上を図る上では、市の関与がより効果的になると考えられます。

次に 9 ページをご覧ください。

地方の中小規模の私立大学の経営が厳しくなっている現状に鑑み、私立大学の安易な公立化の回避が必要であると示されています。進学希望者数に対して大学の定員が過剰となることで、大学の経営状況の悪化を招き、そのことで適切な高等教育機会の提供が難しくなることが懸念されている中、公立化を進める場合には、地域の高等教育ニーズや将来の人口動態を十分に考慮した、慎重な検討が求められています。

次に 10 ページをご覧ください。

本市の人口は、長期的に減少傾向であり、少子高齢化の進行も見込まれています。15 歳から 24 歳の若者人口は、2045 年以降には、現在より 4 割減の 5,000 人程度になると予測されます。

次に 11 ページをご覧ください。

こちらは本市の転入・転出状況で、グラフ上側の転入数はほぼ横ばいですが、下側の転出数はやや改善傾向にあったものが、近年は悪化傾向で人口減少の要因となっています。

次に 12 ページと 13 ページは、少し古いデータですが本市の男女別の転入・転出数の状況を示しています。男女とも、左側のグラフでは、15 歳から 19 歳の年代が、5 年後の 20 歳から 24 歳になるところには大きく減少していく状況が示されています。特に女性は大学入学による転入が人口減少を一定程度緩和している状況となっています。一方、右側のグラフでは、男女に顕著な違いが見られ、男性が 10 代後半で大きくマイナスになる一方で、リターンなどで戻ってくることでグラフが上方向に伸びるのに対して、女性は、引き続き下方向か、あるいは上向きになったとしても、少人数にとどまっており、若年女性の流出問題という多くの地方で見られる現象となっています。

次に 14 ページをご覧ください。

岡山県全体では、高校卒業者数が減少する一方、進学率は上昇傾向にあるため、大学進学者数は横ばいとなっています。

また、津山市内の高校生の大学進学率も増加傾向となっています。

次に 15 ページをご覧ください。

左側は、2024 年度の中国地方の県ごとの高校新卒者の進学地域を表していますが、岡山県では 41%が県内の大学に、52%が中国地方の大学に進学しています。

また、右側で、県内の大学の学生の出身地を見ますと、県内以外では広島、兵庫、香川など隣接する県が多くなっています。

次に 16 ページをご覧ください。

左側に 2024 年度の美作大学在学生の出身地域を示しており、835 人のうち、岡山県

出身者が 282 人で約 3 割を占めていますが、鳥取、島根のほか、高知、沖縄など、大学が積極的に募集活動を行っている地域からの学生も多い状況です。

また、右側、県内の大学進学者を県内でどの程度受け入れられるかを示す、大学進学者収容率ですが、こちらは鳥取、島根が低くなっており、美作大学がこうした地域の受け皿となっているということがうかがわれます。

17 ページをご覧ください。

こちらと 18 ページでは、県内の大学等の状況が示されています。県内には、岡山大学、岡山県立大学、新見公立大学の国公立 3 校と、私立大学 15 校がありますが、美作大学が、美作地域で唯一の大学となっています。

また、津山市内の他の高等教育機関としては、津山高専と、この資料に記載のない中央看護専門学校があり、計 3 校となっています。

次に 19 ページをご覧ください。

こちら 2024 年度の県内すべての大学の収容定員充足率を見ますと、国公立の 3 校と私立大学の上位 3 校については 100%を超えており、美作大学は 100%を下回るものの、これに続く高い水準を維持しています。

次に、幼稚園を取り巻く環境について説明しますので、21 ページをお開きください。

全国的に出生数が減少する中で、共働き世帯の増加に加え、保育園と幼稚園の機能を併せ持つ認定こども園の利用増加なども幼稚園ニーズの減少に拍車をかけており、幼稚園在園児数は、出生数を上回る減少率となっています。

また、市内の年齢別人口を踏まえますと、今後も減少が見込まれる状況です。

22 ページをご覧ください。

市内の幼稚園全 4 園の園児数の推移を見ますと、美作大学附属幼稚園が最も多くの園児を集めていますが、いずれの園も減少傾向にあって、認可定員を大きく割り込んでいる状況です。

最後に 23 ページをご覧ください。

法改正によりまして、幼稚園を含む公立大学の附属学校の設置が 2017 年度から可能となっています。教員養成を行う大学で教員免許の取得を卒業要件としていない場合、附属校の設置の判断は各大学や設置自治体に委ねられますが、歴史的な経緯などもあり、公立大学での附属学校としての設置は、少数にとどまっている状況です。

なお、現状では、自治体直営の学校として、都留文科大学附属小学校や福山市立大学付属こども園などが 4 校、公立大学法人が設置するものとして、兵庫県立大学附属中学校・高等学校と、奈良県立大学附属高等学校の 3 校が設置されています。

大学を取り巻く環境についての説明は以上です。

○会長

ありがとうございました。ただいまの説明に意見、質問などありましたら挙手をお願いします。

○委員

多くの資料が示された中で、少し理解を深めるために何点か質問します。

まず、16 ページですが、美作大学の進学者の出身地域がグラフで表されています。在学生数が 835 名で、津山市の人口減少の抑制に一定程度貢献していると記載がありました。が、男女別の数、比率はわかりますか。

○会長

ほかに、資料がありましたらお願いします。

○美作大学

在学生の男女別ですが、私どもの教育課程が食と子どもと福祉のエッセンシャルワーカーでありまして、特に女性が多く就労している専門職となっています。現状、8 対 2 で、女性、男性という割合になっています。

○会長

ありがとうございます。

○委員

17 ページですが、美作大学は、岡山県の北部、美作地域唯一の大学ということで、岡山県内の大学の学部データが示されていますが、美作大学の学部・学科と競合というか同系統の学部・学科がかなり存在するイメージがありまして、将来の新たな学部・学科の検討にも関わるかと思われますので、次回以降の検討のときに、どこの大学のどの学部・学科と美作大学の学部・学科が競合関係にあるのか教えてもらいたいと思いました。

もう 1 点、22 ページですが、津山市の幼稚園園児数の資料に、4 つの区分で示されていますが、津山西幼稚園と津山東幼稚園は、津山市立の幼稚園と理解してよろしいですか。

○事務局

はい。津山西と東はいずれも津山市立です。

○委員

ありがとうございます。私からの質問は以上です。

○会長

競合の状況は、第 2 回、第 3 回で新しい学部・学科の検討が入っていますので、協議を行うことになると思います。必要に応じて資料などもお願いします。

○事務局

はい、承知しました。

○会長

そのほかにいかがでしょうか。

市内高校の大学進学率、令和 5 年のデータで 46%とありますが、先ほど 17 ページの説明で、岡山県が 56.3%という数字が出ていました。10%ほど低いようですが、地域ならではの事情があるなら教えてください。

○事務局

推定が含まれるのは勘弁いただきたいのですが、市内高校生の大学進学率を全国と比べると大体 10 ポイントぐらい低い状況で、県内で比べても 5 ポイントぐらい低くなっています。考えられる理由としては、市内には実業系の高校が充実し、実業系の志向が強いという土地柄もあります。そのため、進学先のひとつとして、専門学校、専修学校が選ばれる傾向

があるのではないかとというのが一つです。

それから所得水準の関係で大学進学が選ばれにくいことが、地方によくある理由と同様にあるのではないかと推測します。今考えられることを 2 点お伝えしました。

○会長

大変ありがとうございました。

このことにつきまして、委員から補足などあればお願いします。

○委員

はい。本校は、大学進学を前提に入学している生徒が多い学校ですが、ここ数年、入学募集の方も厳しい状況が続いており、大学進学への熱量が少し下がってきているということを実感として感じています。

○会長

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

○委員

資料 23 ページのところで、公立大学法人が設置主体として附属校を設置している事例として、都留文科大学の附属小学校がありますが、実態は都留市の教育委員会が運営している形態です。特に試験で選抜しているわけでもなく、通常の公立学校と同じ、学区域が決まっているものですので、あまり参考にならないのではないかと思います。名前としては附属ですが、実態としては、今回の事例となるかは微妙かと正直思っているところです。以上です。

○会長

貴重な情報ありがとうございました。

その他、質問や確認などいかがでしょうか。

○副会長

18 ページの説明に、県内には国公立 3 校と私学 15 校、その他、美作地域には津山高専とあと中央看護専門学校と言われましたが、専門学校について正確に教えてください。

○事務局

中央看護専門学校という 3 年間の看護師の養成課程を持つ専門学校が 1 校あります。

○副会長

専門学校系は、それ以外はないのでしょうか。

○事務局

ありません。

○副会長

わかりました。

○会長

ありがとうございました。

不確かですが、津山東高校に看護系の専攻科があることは伺っています。

○事務局

はい、その通りです。

○会長

そのほか、確認や質問ありませんか。

○委員

県内にいながら、津山市内の土地勘があまりないもので、22 ページで幼稚園の 4 種類を明示する資料がありますが、美作大学附属幼稚園との位置関係、市内のどの場所にあるか教えてください。

○会長

事務局、お願いします。

○事務局

まず、美作大学附属幼稚園は市の中心部、大学に隣接したところです。津山東幼稚園は東部地区で、ここから車で 10 分くらいのところにあり、西幼稚園もこの中心部から西へ車で 10 分くらいのところにあります。

それから、もう一つの市内の私立幼稚園が西幼稚園から 2 キロほど南にありますので、今のところ、東に 1 園、中央に 1 園、西部に 2 園という分布です。

○会長

ありがとうございました。

○事務局

また改めて、地図に位置を示したものをお配りしたいと思います。

○会長

ありがとうございます。よろしくお願いします。そのほかいかがですか。

最後に全体を通して質問や確認があったらお願いしますので、後程よろしくお願いします。

では議題の(2)はここまでで、続いて、(3)の美作大学の現状についてです。

(3) 美作大学の現状について

○会長

こちらは、美作大学に自ら説明いただくことになっているようです。

本日は、美作大学の桐生学長をはじめ、関係の方々に出席いただいています。

それではどうぞよろしくお願いします。

○美作大学

失礼いたします。美作大学学長の桐生です。

この度は本学の公立化要望に際して、津山市において本有識者会議を開催いただきました。

また、この有識者会議に多数の先生方にお集まりいただき、初回に本学の概要説明の機会をいただいたことに対し、学校法人美作学園を代表して心からお礼申し上げます。

それでは資料 3 をご覧ください。

本学園は、1915 年の創設以来、美作地域の人と暮らしを支えてまいりました。中でも美

作大学は 1967 年の開学以来 58 年間にわたり、「食・子ども・福祉」の分野で、地域の暮らしを支えるエッセンシャルワーカーの育成に努めてまいりました。今回の公立化要望は、単に少子化による学生数減少に対して、教育機関の存続をお願いするのではなく、本学が担っている津山市を中心とした岡山県北部の地域再生のエンジンとしての役割を維持するために、ブランド力のある公立大学化により、都市機能の一部である社会インフラとして大学を残したいという思いがあります。それを通じて若者の流出を防ぎ、若者定住のまちづくりに寄与していきたいということです。

本日は、そのような本学の役割と存在意義についてご理解賜りたく、資料を用いて本学の教育、就職状況、入学者の動向、地域貢献、財務状況、そして今後の展望について説明させていただきます。時間の関係上、要点のみとなりますが、何とぞ容赦いただきまして、不明な点は、後ほど、質疑の時間に賜ればと存じます。

それでは、資料の 2 ページをご覧ください。

美作大学のミッション、理念、目的は、地域で必要な地域で活躍できる専門人材である「食と子どもと福祉」の 3 分野の専門的職業人を育成し、地域課題の解決に寄与することです。地域をキャンパスにというキャッチフレーズのもと、徹底したリアルな学びと教員による熱心な指導、充実した学生生活により、国家試験や教員採用試験の高い合格率と専門職の高い就職率を上げ、県内外からも高く評価されている大学です。

続いてスライド 3 ですが、こちらはこれから説明する概要をまとめたものですので、説明は割愛させていただきます。

続いて、スライド 4 をご覧ください。

先ほども説明がありましたが、美作学園の沿革について、簡単に述べたいと思います。本学や地域の人材育成の社会インフラとして、教育に励んでいます。学園の起源は大正 4 年に女子の中等教育化を望む地域の声に応えるべく、苫田郡教育会が津山高等裁縫学校を創設したことにあります。地域の小学校教員、裁縫教員の養成に取り組み、地域の篤志家の物心両面の支援を受けながら発展してまいりました。その意味で、私どもじゃ地域立の学園であると認識しています。その後、短大の設立を経て、地域の要望のもと、1967 年に四年制の大学及び幼児教育の実践の場としての幼稚園を設立し、幼稚園については、翌年、附属化いたしました。現在はスライド 5 のように、地域の人材育成を支える「食と子どもと福祉」、この 3 つの分野でのエッセンシャルワーカー育成の学部構成となっています。

美作大学は生活科学部の 1 学部体制で、入学定員は 210 名です。学科構成は、食物・児童・社会福祉の 3 学科からなり、食物学科は管理栄養士の養成、児童学科は小学校・幼稚園の教員及び保育士の養成、社会福祉学科は社会福祉士及び関連する福祉人材の育成を行っています。専門職については次のスライドで、その成果を紹介します。

スライド 6 です。地域に根差した人材育成の拠点大学として、圧倒的な教育力、専門分野での高い就職力、成長を促す「美作力」をモットーに、幅広い学力層の学生に対して効果的な教育を行うことで、国家試験や教員採用試験で全国平均を大きく上回る成果を上げています。管理栄養士の現役合格率では、全国平均 48%に対して、本学は 81.2%です。他大学では合格可能性の低い学生を受験させないところもあるようですが、本学では受験希望

者をすべて受験させた上で、この合格率を維持しています。

また、小学校教員採用試験の合格率は、全国 46%に対して本学は 70%です。全国平均と比較はできませんが、公立保育園、幼稚園採用試験の合格率も 75%となっています。

社会福祉士の現役合格率は、全国平均 56%に対して、本学は 97.9%の合格率と、非常に好成績となっており、これは中四国、沖縄の私立大学の中では、9 年連続 1 位になっています。

こうした成果を上げている背景には、徹底した学生支援の体制があります。

次のスライドをご覧ください。

大学探しランキングブック 2025 年度版がありますが、これは、高校の進路指導主事や企業等に調査を行い、様々な大学の評価指標となる項目のランキングを掲載したものです。スライド 7 の右側にありますように、本学は、面倒見がよい大学、小規模だが評価できる大学として、中四国地区の私立大学の中で第 1 位の評価をいただいています。この評価、アットホームな校風の中、日常的な支援から専門的支援まで多層的な支援体制を整備し、担任を中心に、学生に寄り添った支援を、教・職共同で取り組んだ結果だと言えます。この体制のもと、入学して卒業するまでの 4 年間の退学率は 3.9%で、国公立の 5%、私立大学の平均 8.3%と比べ、だいぶ低いことがお分かりいただけると思います。

その次のスライドです。本学では意欲のある学生の学びを支える制度として、独自の奨学金制度を用意しています。年間の総額は 2,300 万円(美作学園により後日訂正:4,120 万円)というかなり大きな額を支出していますが、やはり、公立の授業料の安さにはかなわないところがあります。

スライド 9 をご覧ください。本学は、地域に根差した人材育成を行っています。教育研究自体も地域と関わりを持って進めています。スライド 9 は、3 学科で行っている研究例を挙げたものです。地域の課題解決のため、実用的な研究を中心にその成果を地域に還元しています。

また、こうした研究面での地域連携も、研究室の学生の実践力や、課題解決力を育むことにつなげることができており、本学の教育力を支えているところです。

次のスライド 10 ですが、教育面における地域連携の取組を挙げています。地域をキャンパスという合言葉で、教育を行っています。各学科の専門分野に応じた地域課題の解決を探究する PBL を積極的に導入し、学生の主体性や課題解決力を育んでいます。右の写真は「MIMASAKA METHOD」と呼ばれる津山市教育委員会と連携して行っている中山間地域の教育力向上のためのプログラムで、児童学科の学生が、放課後の補習授業を小学校で行っている様子です。表のとおり各科とも様々な地域連携によるプログラムを行っているところです。

スライド 11 をご覧ください。

こうして学んだ学生たちの就職状況です。これまで申し上げたような教育により、専門性を身につけた学生たちの就職率は、100%に近い状況になっています。また、教・職共同による就職先の開拓訪問、自治体との就職支援協定などを通じて、学生一人ひとりの就職希望をかなえる活動をしており、伝統的に高い U ターン就職率を実現しています。津山・美作

地域出身の学生については、30%から 40%が地元で就職しており、地域外ではあるものの岡山県内に就職する学生は全体の 70%から 80%に上っています。

このように就職する学生の職種別の内訳が、次のスライド 12 から 14 になります。まず、スライド 12 は、食物学科の就職者で、円グラフの内側、文字が赤く、ピンクで網掛けしているところが本学科の資格、教育課程に直結する専門職です。専門職の 88.8%が、地域の病院や福祉施設、給食事業所等に就職しています。

続いて、スライド 13 は児童学科ですが、85%が教員や保育士、公立幼稚園や小学校、保育園に就職しています。

続いてスライド 14 の社会福祉学科の就職ですが、84%がソーシャルワーカー、児童福祉指導員など、自治体や社会福祉協議会、児童・高齢者・障害者の福祉施設、病院などへ就職しています。こうした高い就職率は、高校の進路指導の先生方からも高い評価を得ており、大学探しランキングブックでは、中四国地区の私立大学の中で就職に力を入れている大学第 1 位に選ばれています。

このように、卒業生の多くが地域の暮らしを支える専門職として就職しており、本学の専門職育成の教育力を理解いただけると思います。今後、本学が存続できなくなると、専門職の人材育成は県北以外となり、一旦地域を離れた学生が戻ってくるのは、特に女性においては、厳しい状況になるのではないかと思います。

続いて、スライド 15 をご覧ください。美作地域の小学校における新規採用教員や講師の内訳ですが、本学出身者は約 20%から 25%を占めております。児童学科の小学校教員養成コース卒業生は、定員の約半分の 40 名ですが、そのうち 20%は津山・美作地域に就職しています。この数は、地域の小学校を支える教員として決して少なくはありません。現在、岡山県教育委員会と連携し、県北の教員確保のために県北出身者の教員養成の強化に取り組んでいますが、本学がなくなるとそうした人材育成も難しくなるのではないかと思います。

具体的な数字の根拠は、次の 16 ページの太字の部分が、津山市出身者の数になります。ほとんどが地元にしっかり教員として残っていることがわかりいただけると思います。同様に、保育士・幼稚園教員の養成についても、スライド 17、18 のとおり、保育士・幼稚園教員養成コースの卒業生の約 20%が美作地域に就職しています。現在、県民局と連携して高校生向けの保育士バスツアーを実施し、保育人材の確保に努めています。

続きまして、スライド 19 をご覧ください。

このように、教育、就職でしっかりと成果を上げている学生たちですが、課外活動も盛んです。例えば写真のような七夕の浴衣登校やハロウィンの仮装登校、学園祭を学生たち自身で企画運営しております。在学生の約 7 割がクラブ・サークル活動に参加しており、左下一覧のように、地域の活力となるようなサークル活動も多くあり、学生も地域を盛り上げています。遊ぶところの多い大都市圏とは異なり、学生のほとんどが、日々キャンパスを中心とした学生生活を送っています。そこに教員も積極的に関わり、アットホームな学風を作り上げています。そうした状況のもと、連帯感が強まり、学生の満足度の向上や、高い国家試験の合格率につながっていると思われます。

こうした美作大学ならではの、津山にあるからこそできる教育により、成長力につながる力を「美作力」と本学では呼んでいます。

次にスライド 20 をご覧ください。

学生もいろいろやっていますが、教員も知の拠点として、津山市の委員会等に貢献しているところです。

続いて、学生募集の現況についてです。

スライド 21 をご覧ください。

少子化を見据えてこの 20 年間、この地に学生を集めるために教育力、就職力、そして「美作力」を磨き上げ、順調に定員を確保してまいりましたが、国の修学支援新制度、コロナ以降の若者の都市部志向の強まり、18 歳人口の減少による都市圏大学の入りやすさの向上といった複合的な要因が重なり、残念ながら令和 5 年度以降、志願者・入学者ともに減少し、入学定員を割っている状況にあります。

スライド 22 をご覧ください。

入学者の状況を地域別に示したのになります。岡山県内からの入学者割合は、この 3 年間増加傾向にありますが、岡山県内出身者だけでの定員充足は厳しい状況にあるため、県外からも学生を集める必要があります。近年、岡山県に次いで多かった高知県からの入学者が顕著に減っており、その分入学者全体が減っている状況にあります。ちなみに高知県出身の辞退者に理由を伺ってみると、高知県内の国公立大学へ合格したという割合が圧倒的に多いということが分かっています。

続いてスライド 23 ですが、津山市を含む美作地域の高校出身者は、全入学生の約 35%、津山市内の高校出身者は約 27%となっています。参考として、私立大学から公立大学へ移行した大学の、公立化 2 年前の地域内入学者の割合は大体 28%で、本学もそれと似たような数値になっています。

続いてスライド 24 です。

収容定員の充足率ですが、先ほども市の説明にあったとおり、本学は、県内でもかなり健闘していると思っています。そして、スライド 25 が、岡山県内の私立大学との比較になっています。14 大学中、入学定員充足率、収容定員充足率ともに、100%を超える上位の 3 私立大に次いで 4 番目の高さとなっています。

同様に広島県と比較してみたものがスライド 26 です。収容定員充足率は広島県内の私立大学と比較しても、4 番目の高さとなっています。ちなみに広島県内では収容定員を充足している私立大学は 2 校のみであり、近隣の大学と比較しても、本学は学生を集める力が高いということは理解いただけたと思います。これは本学の教育力や面倒見のよさ、就職力の高さなどが評価されてのことで、実際、高校の先生方からは、美作大学に生徒を預けたら安心との声をいただいています。

しかし、今後の少子化の進行を踏まえると、私立大学としての現状維持、回復は容易ではなく、本学としても、様々な改革を進める必要があると認識し、現在自助努力を進めているところです。

次のスライドをご覧ください。

現在進めている教育改革としては、地域の暮らしを支える人材育成に加え、地域の変革を牽引できる人材の育成を目指し、データサイエンス教育、アクティブラーニング、PBL の推進、教員の教育力向上に向けた FD 活動の充実等に取り組んでいます。

また、研究改革においても、科研費など外部資金獲得の強化、若手研究者への支援、地域課題解決に資する研究への重点配分を強化しており、これらの教育研究改革を通じて、学生や地域にとって、さらに魅力のある大学になることを目指しています。

こうした魅力を伝える活動が学生募集活動になるのですが、入学定員の充足を目指して京都府から沖縄県までの広範囲にわたる年間延べ 2,000 校への高校訪問、魅力あるオープンキャンパスの実施、オンラインでの入試対策講座、学生による母校訪問等、多角的かつ積極的な学生募集活動を展開しています。

続きまして、附属幼稚園との関係ですが、本学は大学とともに附属幼稚園の公立化も要望しております。

スライド 29 は幼稚園の基本情報、園児数、教員数をまとめたもので、後程、資料を確認いただきたいと思います。スライド 30 は、附属幼稚園が、大学とは不可分な関係にあることをまとめたものです。附属幼稚園は学生の教育、幼児教育の実践的研究の場として、児童学科設置に合わせて設けられた幼稚園であります。児童学科の教育体制も長年附属幼稚園を活用してきた歴史を反映した構成となっています。

また、附属幼稚園は、大学教員が実践的な研究を行う場でもあり、学生の教育実習や卒論での研究フィールドとして活用されています。

そして、附属幼稚園の園児教育においても、学びの土台づくりということで大学と連携しており、大学の図書館、体育館、グラウンドといった施設の積極的利用や大学生との交流、大学教員からの指導といった人的リソースの活用が前提となった教育となっています。

このように、大学と附属幼稚園は切り離して考えることができない関係性を持っていることがお分かりいただけたと思います。

附属幼稚園は単なる教育研究の場ではなく、その成果を地域に還元する場としても機能しており、現在、大学の教員が研究教育の知見を生かした地域の子育て相談を定期的に行っています。

以上、幼稚園の説明でした。

最後に、財務状況について、簡単に説明します。スライド 31 ですが、過去 5 年間の平均で大学は 7,900 万円の黒字です。

スライド 32 が短大です。短大は今年度で募集を停止していますが、過去に定員を上回っていた時期も赤字で、今年度は 1 億 3,000 万円の赤字となっております。同じ学園の高校は、スライド 33 のとおり 1 億 3,000 万円の黒字。附属幼稚園についても、単独での採算は、スライド 34 のとおり 300 万円の黒字となっています。

続いて、法人全体並びに各部門の基本金組入前収支差額の推移を、説明します。

まずスライド 35 は法人全体の状況です。

令和 4 年度まで収支差額は黒字で推移していましたが、国の防災指針に従い平成 30 年度以降、耐震改築、改修工事を行ってきました。

また、学生数減少の影響もあり、令和 5 年度以降の収支が赤字に転じています。

次に各部門の状況でスライド 36 です。

大学では耐震改修工事及び学生数の減少が重なり、令和 6 年度に収支が赤字に転じております。

スライド 37 をご覧ください。

短大ですが、短大単独では定員を上回っていても収支が赤字でしたが、美作地域唯一の短期大学という社会的責務を踏まえ、令和元年度まで大学と合わせて収支の均衡を図っていました。

しかし、大学の学生数減少により、短大を支えることが困難となったため、今年度から学生募集を停止しています。

スライド 38 は高校です。

令和 3 年度をピークに、生徒数が減少しており、大規模な耐震改修も必須となっておりますので、その分下がっております。

スライド 39 は幼稚園です。

10 年平均では、収支の均衡を維持しています。先ほどから出てきた建物の改修等については、スライド 40 に今後の建物の改修見込みを掲載しています。簡単に言いますと大学では 3 億 8,000 万円、高校では 25 億 6,000 万円が、耐震改修等で必要になると算出しております。

次のスライド 41 ですが、これは過去 5 年間の法人全体の貸借対照表です。

続いて、参考資料として、日本私立学校振興・共済事業団の基準に基づく経営状態の分析資料を、スライド 42 から 43 で示しておりますので、参考にご覧ください。

次に、公立化に伴う法人分離時に、金融資産がどの程度移管されるのかについて説明します。

スライド 44 をご覧ください。

美作学園に残る金融資産約 10 億 1,000 万円のうち、大学及び幼稚園に 4 億 3,000 万円、高校に 5 億 8,000 万円になります。ただし、高校分には改修等の借入金を含んでおりますので、実質的には 2 億 6,000 万円を財産分与する見込みになっています。以上が財務状況の説明となります。

最後に、今後の大学のビジョンについてです。私は昨年度から、学長として大学の改革に取り組んでいますが、「美作大学ビジョン 2030」というものを用意し、これを掲げて各アクションプラン、そして各項目の目標を設定して美作大学の改革を進めています。このプランについては後程また見ていただくことで、詳細は割愛しますが、本学が目指す将来像は、建学の理念に基づき、地域社会を支えるだけでなく、その地域を牽引できる人材を育成し、地域をキャンパスとし、教育と研究を通じて地方大学のモデルとなることです。その中では、新しい時代に合わせた専門職の育成ということも考えています。

そのために、教育、研究、学生支援、地域貢献、大学運営、附属幼稚園の各分野における改革目標と戦略をこのビジョンで示し、学生と教職員が能力を発揮して成長できる魅力ある大学を目指しているところです。

本学は今後、この津山でなければできない大学を目指していきたい、そしてこの地域の再生のエンジンとしてやっていきたいと考えているところです。

少々長くなりましたが、私からの説明とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

○会長

ありがとうございました。

多岐に渡って説明をいただいたところですが、まずは状況の正確な理解が求められると思いますので、2回目以降も踏まえて質問などをしていけたらと思います。

それでは、挙手をお願いします。

私から1点だけ。3ページの概要は、後で詳しく説明がありましたが、社会福祉学科の減り方が顕著であるという点について大学として、要因をどのように分析しているか。そして、今後どういう強みが生かせそうかという点をお話してください。

○美作大学

本学は、福祉の中でも特に社会福祉士という相談業務を中心にした、福祉人材を育成しています。社会福祉学科の定員充足については、設立当時からかなり厳しいということがあります。これは1つには、高校生の間で福祉というものをイメージしたときに介護というものがまずきます。親御さんも一緒ですが、社会福祉士、ソーシャルワークというものがどういものであるのかイメージがあまり湧かない。そのため、福祉の分野につながっていないと言えると思います。これは、本学だけではなく、全国的に福祉学科を抱えている大学では、定員を集めるのは非常に厳しいということを伺っています。

そういった中でも我々は、福祉の伝道師として、高校を回り、社会福祉というのはこういうものだという説明をずっとさせていただいてきました。

ちなみに東北震災があったときは、NHK等で、社会福祉士の活躍がテレビで報道され、全国的に周知されたのか、志願者が増えたことはあります。また、社会福祉学科に入学する学生の多くは、高校生までにソーシャルワーカーと関わっている経験があり、自分もなりたいたいと思ってくる方が多いという現状もあります。

本学では、社会福祉の重要性、これは福祉に限らずまちづくりにも関係する分野ですので、そのまちづくりの観点で、福祉を考えていくというところに力を入れています。その結果、地域との関わりは、社会福祉学科が一番多くやっている状況であります。また最近、行政職の公務員としての就職も多くなっている現状です。そういったところをしっかりアピールして、集めていこうということです。

○会長

どうもありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

○副会長

説明ありがとうございました。

「美作力」というところが非常によくわかり、素晴らしい取組だと思っております。

7ページの、面倒見が良い大学、これが多分「美作力」の最大の強みで、教育的な面も含めてあると思いますが、一方、公立大学法人を見据えた検討も含めると、研究力の強化。こ

こが大きな課題になってくるわけです。

特に公立大学法人になると、受託研究、共同研究、競争的資金の獲得、これを相当求められることになりますので、この辺りの教育と研究のバランス、特に「美作力」を維持しつつ、さらに発展、研究力を向上させるというのは、教員に相当な負担がかかる話ではないかと思います。この辺り、9 ページには科研費のさらなる獲得に向けた申請調書レビューとか、日本学術振興会の個別説明会とかありますけれども、現状で教員のエフォートが教育と研究でどのぐらいの割合なのかを、概略で構いませんので確認したいのが 1 点目です。

2 点目は、美作大学の特徴の「地域がキャンパス」ということで、地域連携が特徴の一つだと思いますが、例えば、20 ページの教員の方々の地域貢献、地域連携で各種の審議会委員とかいろいろあると思います。また、行政や企業との連携強化で包括連携協定があると思いますが、ありがちなのが、「協定を結んでおしまい」で、その後、具体的に何ができるかというところが最大の課題となりますが、何か具体的な事例、大学ならではの知見を活用した事例があれば教えていただきたいというのが 2 点目です。

3 点目は、財務ですが、5 年平均では 7,900 万円の黒字と、31 ページにあります。この教育活動収支差額を見ると、令和 5 年、令和 6 年と悪化してきている。耐震化の問題とかが色々あるにしても、教育活動収支差額がマイナスになった要因を詳しく教えていただきたいと思います。

○美作大学

はい。質問ありがとうございます。まず 1 点目、研究力ですが、確かに公立大学になると研究も厳しく見られることは重々承知しています。

我々の大学は「美作力」を極めるため、教員は主に教育、地域連携に取り組むというところに多くの時間を割いています。

もちろんその中には、研究につながるものもあり、後は成果を論文にまとめる、あるいは競争的資金の申請につなげていくことが必要になってきますが、残念ながら、これらを大学としてあまり積極的に取り組んでできませんでした。

そのため、私が学長になってから、その部分を強化しなければいけないということで、学内の助成金のあり方や、そこにつながる支援方法について、昨年からしっかりと取組を進めてきているところです。

これまで科研についても、取ったことがある先生が、個人的に出している状況でした。私自身も何回も取ってきていますが、そういう個人プレーの状況でしたので、それを数年前から学内での研修、そして去年からは研究推進の学長補佐を置いて強化を進めているところです。ただ、指摘のように、研究時間の確保は非常に大きな課題で、どうしたらいいか模索しようとしております。そして、いわゆるエフォートの比率については、調査しようと思っておりますが、まだできておりません。感覚的には 8 対 2 ぐらい、うちの男女比ぐらいの割合で教育が主で、人によっては 10 対 0 という方もいると思います。

私自身も、振り返ってみると、科研などの研究活動をやりながら教育にも取り組んでいましたが、土日を使わないと自分の研究はできない状況でした。現在は、働き方改革と言われる中で、どう折り合いをつけていけるのかが、現状の課題です。

次に地域との関わりについてです。大学案内にもある程度、地域との共同研究の実績を記載していますし、締結している協定もいくつかあります。

特に就職に関する協定については、津山広域事務組合と結んでおります。また、そのほかにも、出身者が多い県とも協定を結び、毎年、情報交換なども行っております。

教育についても、津山市と津山高専との三者で包括連携協定を結び、毎年、それぞれ部会で定期的に集まり意見交換を行っております。また、年に 1 回は、市長や高専の校長先生も交えて意見交換を行っているところです。

さらに、具体的な取組も積み重ねており、そうした内容を毎年確認しながら、三者が一体となって地域を盛り上げていく取組を進めているところです。

他の市町村とも協定を結んでいますが、年に 1 回集まって話し合いを行っているところや、定期的な開催ができていないところもあります。それから民間企業ともいくつか協定を結び、研究活動を進めているところもあります。

地域に関する説明は以上です。財務については、財務部長から説明します。

○美作大学

失礼いたします。

先ほどのご質問ですが、36 ページの折れ線グラフが学生数になっていて、指摘の通り、令和 4 年度から令和 5 年度、令和 5 年度から令和 6 年度にかけて学生数が大きく減少しています。この辺りで収支が悪化したというのがまず 1 つです。

もう 1 つは、国の補助金、改革総合支援事業の採択が令和 5 年度から不採択となり、これが結構大きな額で、現在もまた採択されるよう努力をしていますが、なかなか苦戦しているという状況です。

一番は、やはり学生数の減少が要因かと思います。

○会長

ありがとうございました。

研究力については、先日も研究力が私学助成に関わるとニュースも出ていましたが、財務の多様性という点でも公立化に関わらず重要かと思いますし、研究力があれば地域に活かせる実装的な研究もできると期待して聞かせていただきました。

それでは委員、お願いします。

○委員

多くの分析資料ありがとうございます。

引き続いて財務のところで、伺いたいことと要望があります。

印象としては今、入学者の減、学生数の減で収支赤字が出ていることがよくわかります。これまでの短期大学の赤字分がかなり財務に影響しているという印象を受けますが、令和 7 年度についても予算が固まっていると思いますので、令和 7 年度の予算も示してもらいということと、貸借対照表が 41 ページにあります、可能であれば幼稚園も含んだ形で償却資産に係る減価償却の累計額を示してください。

この 2 点の要望です。

○会長

ありがとうございました。

令和 7 年の予算、減価償却について、資料を次回以降お願いします。

ほかにいかがでしょうか。

○委員

はい。一般論として、大学の成果を数値で示すのは非常に難しいと思いますが、6 ページの専門職人材の輩出で、試験の合格率が非常に高いことはかなり重要なポイントなので、こちらの状況を簡単に説明してください。合格率が上がっているのか下がっているのか横ばいなのか、その辺りを簡単に説明してください。

○美作大学

国家試験には、管理栄養士、社会福祉士等があります。それぞれの経年のグラフはありませんが、管理栄養士は近年、全体の合格率が下がっております。

それに対して、社会福祉士は福祉人材の不足、カリキュラム改定で過去数年に比べると、若干上がっている状況です。

ただ、今後同じようになるかどうかはわかりませんが、全体的な傾向はそういう状況です。

なお、本学はそういった傾向にかかわらず非常に高く、管理栄養士は 8 割以上、社会福祉士は 9 割以上の合格率を維持している状況です。

○会長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○委員

社会福祉士について、全国平均で言いますと、既卒者を含めて 3 割ぐらいしか合格率がないという、非常に難しい資格だと認識されています。3 割というのは、出題をされる方々が調整をして、その年によって合格点、最低点が上下する試験でした。養成大学等の申し入れにより、6 割という国の基準がかなり厳密に守られるようになって、全国的にも合格率が少しずつ上がっていった状況ですが、もちろん学生の努力の賜物で、合格をしているということがあると思います。全国的に合格率が上昇している傾向については、そういう理由もあるかと思います。

質問が 2 つありまして、ひとつは 19 ページの学生の成長支援を説明いただき、「美作力」が学生の満足度につながっていると説明もありました。

学生の声といいますか、学生のアンケート調査等による満足度とかがわかれば、次回以降に教えてください。

また、学生の美作大学に対する愛着、評価を把握していれば、次回以降、教えていただきたい。あと一つは、今月、令和 8 年度の大学入学者選抜要綱が文科省から出しましたが、そこでも高校の教育と大学の教育の接続を非常に重視されていることもあって、高大接続が何年も前から言われているところですが、美作大学と地域の高校との高大接続に関する取組があれば、次回以降で教示いただければと思います。

○会長

もし今、お話いただける点があればお願いします。

○美作大学

まず満足度ですが、データが手元にはないのではっきりとは言えませんが、毎年学生満足度調査を行っており、大学に入ってイメージが良くなったか、悪くなったかの質問をしています。ほとんどの学生は変わらない、あるいは良くなったが悪くなったよりもかなり多いという状況です。それから、楽天が主催している「みんなの学校」という Web ページがありますが、概ね 4 点、3 点とかなり高く評価されているということがわかっており、学生たちは満足している部分が多いと思っております。

高大接続は、かなり前から取り組んでいて、市内の高校と連携して大学の授業を受けて単位を出すというような取組をしています。また、出前講座という形で、大学の教員が高校に赴いて、大学の知見を生かした講座を提供しています。津山東高校とは食物調理科と連携協定を結んでいて、食物調理に関する教員がそこへ行って授業を担当するという高大連携もやっており、食品開発等、興味を持った生徒さんが、本学の方に来ていただいている状況もあります。

○会長

単位認定は、高校生が入学した後に、大学の卒業要件として認定されるということでしょうか。

○美作大学

そうですね。はい。

○会長

次回以降、もう少し詳しい資料をいただければと思いますが、学生目線とか若者目線が非常に重要かと思しますので、お願いします。

ほかにはいかがでしょうか。

○副会長

28 ページの学生募集で、高校訪問を相当精力的にやっておられると聞きびっくりしたのですが、この中で県外参与の方の役割が大きいのではないかと思います。11 名の方はどういうバックグラウンドがある、どういう方なのかを教えてください。

○美作大学

本学の学生募集は、この地域だけではなかなか学生を集めきることが難しい状況です。この地域に 1,000 人ぐらい進学者がいたとしても、食と子どもと福祉の定員の 210 人を満たせるかというとまず無理です。戦略的に、いろんな県へ高校訪問させていただいています。

私も、広報部長、広報関係の仕事をしていたときは香川県の高校を年 4 回、17 校回って大学の説明をしております。

ただ、やはり遠くの県、高知県や沖縄県へ頻繁に行くのは、教員の負担が大きいので、その地で高校の先生だった方に県外参与として各高校を回っていただき、学生募集の協力をいただいている状況です。ほとんどの私立大学が、そういう参与を確保していると思います。

本学では、県外者の方に大きな力をいただいております。県外からも多くの学生に

ていただける状況になっているというところです。以上です。

○会長

そのほかいかがでしょうか。

○委員

まず、率直に思ったのは、こういった大学の情報は、細かく聞く機会がないということがありますので、退学率、就職、地元出身者の割合、教員採用の割合といった内容は、なかなか知ることなかったと思いました。

募集についても、高知県、沖縄県に強く、実際、沖縄県に行っても大学のCMが流れたり、宮古島市の方々からは、美作大学に子どもが進学しているといった話を聞きます。

その中でも大学に県人会というものがあり、保護者にとっても子どもを送るときに、安心感が結構あるのではないかと思います。

子どもが資格を取って帰ってきてくれるというのはすばらしく、ありがたいだろうと思いますが、合格率が高いことに関して、美作大学が独自に取り組まれているとことが何かあるのでしょうか。

○美作大学

食と子どもと福祉の学科を持つ大学は他県にもありますし、岡山県内にも当然あります。他県から来てもらうためには、合格率であるとか就職率という具体的な数値で示すことが重要であり、そこを強化してまいりました。我々の大学に来ている学生は、必ずしも進学校ばかりではなく、中堅校や商業高校、農業高校、工業高校という専門課程の学生も結構おられます。学生の皆さんが、しっかり勉強しないと、合格できないわけですが、そこには各学科の伝統的なメソッドといったものがあります。例えば、社会福祉学科ですと、国家試験対策講座というものを教員ごとに持っており、各研究室で一日中、グループ学習できるような環境を提供しております。ゼミ生が受験する場合、研究室を一日開放して勉強してもらうことで、自立的に学習できる支援を全体としてやっているというところがあると思います。

数年前に本学の就職の取組を調査にこられた日本学生支援機構の調査員の方が、本学を見て驚かれたのは、「7 時くらいの時間にまだこんなに学生がいるのか。ほかの大学でこの時間まで学生がいるのは珍しいですよ。」と言われました。私たちは 9 時まで学生がいるのは当たり前と思っていましたが、改めて思ったのは、学生たちがキャンパス中心に動き、教員も同じようにそこに関わっているというのが、日常的にあるので、そういった中で、みんなで頑張っていこうという雰囲気ができている。

それが「美作力」の一つのポイントになっているのではないかと思います。

食物学科も同じように、学科挙げての対策講座をやっていますし、児童学科の教員採用試験でもかなり手厚くやっているのが現状です。

○会長

そのほかいかがでしょうか。

○委員

奨学金のことで聞きますが、大学の奨学金が 2,300 万円(美作学園により後日訂正: 4,120 万円)ということは、年 2,300 万円と考えたらいいですか。

そうすると4年間2,300万円が続くということでしょうか。

○美作大学

大学の奨学金支出としては、そうなります。

私学では、独自の奨学金を設けることで公立大学との授業料の差を埋めている状況です。

本学も、単純に教育力だけでは難しく、経済的に厳しい家庭も多いので、そういった学生たちに寄り添える奨学金を用意しております。

あとはスポーツに取り組む学生へも、私立大学は特にそうですけども、奨学金によって大学の魅力を高めてもらい、専門職を目指してもらう作りになっています。

私学として生き残るためには、この奨学金制度が非常に重要なポイントになっていて、これぐらいのお金をかけているところです。

○会長

重要な点の指摘ありがとうございました。

学生募集や学生支援に関わる点は次回以降も、また議題になるかと思います。

○委員

地元で学生と一緒に様々な活動をすることがあり、キャンパスに夜遅くまで学生がいることは感じていましたが、先生の説明を聞いてなるほどと思いました。

放課後子ども教室事業に児童文化研究部の方に来ていただいておりますが、振り返りをするときに、バージョンアップして行って、すごく勉強になります。

子どもに関わることで気づきが多数あり、それを学校に返してやり取りを行う、こういうつながりはもう本当に、学生ならではということを感じておりました。

日々の学生生活の中で、教職員と学生の距離が近いことも大きく影響し、丁寧に学生に関わっていることを改めて感じました。

それから、これまで美作大学の取組を聞くチャンスがなかったですが、今日は、数字で表されたりしていて多くの学びがありました。

基本的な理念を継続していくためには、やはりいろいろ進化していくことも必要だということを、学ばせていただきました。

ありがとうございます。

○会長

先ほどから、各委員からのリクエストも出ておりまして、こういう資料がいただきたいということもあったと思います。

この後、思いつくことがありましたら、事務局へ申し出いただき、可能であれば、次回以降で用意いただく形にしたいと思います。

予定しておりました時間がまいりましたので、議題の(3)について、これで締めくくります。

ありがとうございました。

非常に活発に議論いただき、円滑な進行にも協力をいただきましてありがとうございました。

それでは、事務局へお返しさせていただきます。よろしくお願いします。

7 閉会

○事務局

会長、ありがとうございました。また皆様には、長時間にわたりありがとうございました。本日の会議内容は、議事録を作成し、後日、市ホームページで公開させていただきます。

次回の会議は7月17日を予定しております。テーマは本日の議論等も踏まえて設定の上、事前に資料を送付しますのでよろしくお願いします。

それでは、以上をもちまして、第1回美作大学の公立化に関する有識者検討会議を閉会します。誠にありがとうございました。